

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ---)

事業所番号	O670400340		
法人名	米沢公和会		
事業所名	サンブラザ米沢グループホームさんさん		
所在地	米沢市大字築沢3470		
自己評価作成日	平成 25年 7月 27日	開設年月日	平成 9年 7月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な環境の中でその人がその人らしくここでの生活が1日でも長くつづくよう支援をしています。小学校の生徒や近隣施設の利用者のいろんな方々との交流ができ、元気に明るく笑顔のたえないホームです。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・インワン		
所在地	山形市検町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成25年 8月 27日	評価結果決定日	平成25年 9月 20日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、米沢市南部の自然豊かな田園地域の中、経営法人の各種施設が集散的に存在する敷地の一角にあり、「一人ひとりのいのちを尊重し、安らぎのある人生が送れるよう支え合う」という法人の基本理念を理解する職員によって、法人施設間の連携と地区の学校はじめ多くの住民との交流を基盤に、利用者が家庭的な環境で、自立的に、安らかに生活できるような支援がなされている。また、利用者家族との関係を大切に、介護計画の作成に当たっては、サービス担当者会議に家族の出席が叶わなくても、家族の意見等を尊重し議題として話し合い、利用者の現状に即した計画を作成している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本理念をもとに事業所内で運営方針を作りさんさん独自の行動目標を掲げている。利用者・家族・地域の絆を大切に、住み慣れた地域で安心して生活が送れるよう実践につなげている。	法人の基本理念を基に毎年事業所内での実践状況の振り返りを含めて運営方針と行動目標を定め、それが職員にもよく理解されている。「一人ひとりの「いのち」を尊重し、安らぎのある人生が送れるよう支える」支援がなされている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(運動会・お祭り・文化祭・幼稚園行事等)に参加を行い交流を図っている。散歩の途中に近所の住民や小学生との関わりもある。	運動会・文化祭・お祭り・お花畑の整備など地域の行事に参加し、また、法人施設で開催する「介護予防教室」に地域住民と一緒に参加すると共に、慰問等を積極的に受入れるなど、地域との交流を図っている。安全対策として駐在所との連携にも努めている。職員も行事や散歩等住民とのふれあいを大切に声かけ、挨拶など日常的な交流の継続に努力している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同法人の地域交流室で行なっている健康教室に参加している。地域の方々とコミュニケーションを図りアドバイス等行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、毎回さんさん便りを発行し、ホーム内の状況を報告している。出席者の皆さんに意見や要望を都度お聴きしている。職員会議や管理職会議等で検討し、サービスの向上に努めている。	年に6回、利用者全員及びその家族・市職員・地区代表・民生委員・他施設長・ホーム長で運営推進会議を開催して、事業所近況を報告し、意見をもらい、情報を交換し、サービス向上に活かしている。また、委員からの意見を受けて、利用者全員の参加を得て、意見や要望を表す機会としての機能も果たしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市からの派遣職員の訪問や、運営推進会議の参加等に意見やアドバイスをもらっている。ホーム内で困ったことや疑問が生じた時は市の担当者に相談に行くなど心掛けている。	運営推進会議に市職員の参加を得るほか、2カ月に1回介護相談員の訪問を受け、「気付き」を教えてもらい、また、情報交換を行い課題解決を図るなど、協力連携関係が築かれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>法人全体の教育もあり、職員は理解している。我が家で生活しているような自由で安心してくつろげる生活が送れるようサポートし、個々に合わせた対応を心掛けている。</p>	<p>法人全体の教育の徹底もあり、禁止対象行為についての職員の理解もしっかりし、身体拘束をしないケアの実践に向け努力している。戸外に出かけたがる方や危険に繋がる恐れのある行為については、職員等で話し合い職員が付き添い安全を確保し、散歩やホーム行事に関心を変化させる等、鍵をかけない工夫や不適切な対応がないよう工夫している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人の教育もあり、全職員理解しており防止に努めている。</p>	/	
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>資料等で勉強は行っている。</p>	/	
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みや入居時に口頭や文章での説明を行っている。不安や心配等気軽に話しができるよう心がけ納得してもらえるよう努めている。</p>	/	
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や要望を記入する用紙を準備している。家族は、面会に来てくださる回数も多く、近況報告を行い話しやすい環境作りに努めている。利用者は、市の派遣職員の訪問時に意見を言えるよう機会もあり、何かあれば職員会議等で話し合い反映している。</p>	<p>玄関等に意見要望用紙を置いておくと共に、面会の機会を大切に状況報告を行い話しやすい環境を作り工夫し、実際面会の機会も多い。職員も家族との連携を大切に普段から積極的に意見等引き出すよう努めている。市の派遣職員による意見を聞く機会もあり、サービスの向上に活かしている。</p>	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議を開催している。職員のやりたいこと、できることをくみ取り反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務時間に恵まれ働きやすい環境にある。毎年給与の見直しも行われている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回スキルUPシートを用いて面接を行っている。職員の現状に応じ研修会に参加している。また、資格取得を勧めている。	管理者等は年2回、職員毎のスキルアップシート(自己目標・方法・評価)に基づいて面談をしケアの実際や力量を把握し、それを踏まえて研修機会を作っている。また、法人で年4回、事業所でも感染症等折に触れて実践的な研修機会を設定している。さらに法人も新たな資格の取得を推進している。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	居宅支援事業所や他施設との連携を図り、学ぶ機会を持ち現場に生かせるよう取り組んでいる。GHの東北大会等にも参加している。	市西部地区の事業所・施設研修などで学ぶ機会を設定している。グループホームの東北地区大会にも参加し、職員の研修・交流の機会を確保している。	事業所は、平成9年に設立以来地域で先進的取組を行ってきており、職員間の市域・地区レベル等の交流の機会の検討を期待したい。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接時や入居時に本人に話を聞き、現状を把握できるよう努めている。職員の対応を統一し本人の気持ちにより添った対応に努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居相談や契約時に話を十分に聞き、現状までの生活状況を把握し、出来るだけ希望に沿った対応に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時、近隣施設との連携・接続を図り最良の支援が提供できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意なもの(料理・裁縫・畑等)や趣味等を会話をしながら一緒に行い生きがいのある生活がおこれるような環境作りに努めている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の協力もあり、面会も定期的にあり楽しい時間を過ごしてもらっている。面会時は、現状を報告し情報の共有に心掛けている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所にドライブに行ったり、その方の思い出などコミュニケーションを図っている。面会時に一緒に写真を撮りお部屋に飾っている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	1人1人の性格や好みは違うため、時には職員が間に入り場の話の流れを作ったり皆で関わられるよう努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	法人の行事等通じて交流している。また、質問等あれば親身に対応している。			

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活や会話の中で、希望や思いを把握出来るよう努めている。個別対応を行ったり、担当職員が検討し他職員も把握しその方本位の対応を行っている。	担当職員を中心に、普段のケアの中で、日常生活・家族来訪時の会話等から本人の希望や意向を汲み取り、会議等で話し合い他の職員の意見等を加えながらきめ細かく対応している。		
----	-----	--	---	--	--	--

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	細かな情報を通じ、以前の暮らしを知りその方に合った対応ができるように努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で、現状を把握し、記録や申し送りケアプランを通して行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント作成時、本人・家族の希望を聞きその内容にそって検討を行い会議を開き介護計画を作成している。	担当者によるサービスの実施状況の確認を2週に1回行い、モニタリングと計画の評価を3ヶ月に1回、計画の見直しを6ヶ月に1回行っている。サービス担当者会議では、家族の意見を尊重した話し合いが行われ、職員のアイデアを取り入れた、本人本位の介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録を行い、常に職員同士情報、申し送りを密にして実践している。変化があれば都度話し合い見直している。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関係施設に訪問したり、行事に参加してもらっている。安心して過ごせるよう駐在所との連携も図っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人家族と話し合いかかりつけ医をきめている。個人のかかりつけ医とは、いつでも相談できる体制を作っており何かあれば24h対応可能な状態になっている。また、老健の医師とも連携を取っている。	入居時の家族との話し合いの中でかかりつけ医の活用について協議し、家族、医療機関と事業所の相談連絡体制ができています。受診結果等は電話等ですみやかに伝達し、その経緯を記録に残している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医の看護師についてもいつでも相談できる体制を作っている。また、老健の看護師も何かあればアドバイスや対応もしてくれる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、見舞いを兼ね病院のSWと相談し、家族の希望も聴きながら早期の退院にむけた働きかけを行っている。また、協力医療機関との連携もとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、将来について相談を行っている。その都度かかりつけ医にも相談し家族に説明してもらい、話し合いを重ねながら対応している。また近隣施設とのSWとも連携を図り、法人全体で支援している。	入居時、重度化した場合等についての十分な説明を行い、それに基づき、状況の変化の都度、最適支援の方法を検討している。法人の施設や近隣の施設等を総合的に勘案し、スムーズに適切な支援が出来るよう努力し、利用者及び家族の安心感に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに従い急変時の対応をしている。また、救命救急の研修会に参加し、実践につなげている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練をおこなっている。ホームには、築沢地区内施設に通報システム装置を設置、スプリンクラーも導入している。管理職の連携会議でも状況に応じ話し合いを行っている。	年に2回、夜間を含め、隣接する法人施設全体で、地区の応援も得て防災訓練を実施している。法人施設の異常は地区施設に通報される仕組みになっている。なお、事業所には、スプリンクラーも設置され、非常用食料も備蓄されている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に敬う気持ちを持ち、一人ひとりの性格や生い立ち等を把握しその方にあわせた会話や声掛けで対応している。	利用者の希望や意向を尊重しながら、利用者一人ひとりに合わせた言葉かけや自己決定しやすい言葉かけを行いその人らしい生活が出来るよう努めている。また、普段から職員同士注意しあい、不適切な対応等無い様に努力している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃関わりを持つことで、利用者の方々の表現の仕方を観察している。また、自己決定できるような声掛けを心掛けている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特に決まった日課は無く、希望を優先し本人のペースで過ごせるよう対応している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みに合わせ、おしゃれや身だしなみ出来るよう支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備から後かたづけまで職員と一諸におこなっている。旬の食材を取り入れたり、食べたい物があれば都度対応している。会話を持ち一諸に食事を行っている。	管理栄養士の献立案に職員の希望を入れて、3食とも皆で準備・後片付けをし、食事を楽しんでいる。いもに等季節食や行事食の機会をつくり食事が楽しみなものになるよう工夫している。職員と会話を楽しみながら居間には大きな笑い声があった。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランス等管理栄養士に相談しながら献立の作成をしている。また、利用者の状態や好みに合わせて水分を摂ってもらったり、食材柔らかくしたり刻んだり工夫している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアを行って、清潔保持を心掛けている。義歯は、夜間洗浄剤を使用している。			
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を活用し、個々に合わせた対応を行っている。ほとんどの利用者は自立されている。排泄物品を使用している方も都度検討して対応を行っている。	個人ごとの毎日のチェック表を踏まえて、適時の声かけ等により自立支援を行っている。その際は、例えば、さりげなく話題を変えて誘ったり、1人でなく複数人に声かけしたり、個性を踏まえた配慮を工夫している。利用者の状況に応じ介護計画に具体的に位置づけ評価を行いながら、排泄の自立に向け支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分を多く摂るよう促がしている。食事でも繊維質の多い物を提供している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	特別なことが無い限り、毎日入浴を行っている。希望があれば都度対応し、拒否があれば時間をずらしたりこえがけを工夫している。	週に2～3回、1対1で入浴支援を行っている。入浴が好きでない利用者には、希望に沿うよう日時を設定したり配慮することや声かけ等を工夫して清潔を確保している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動や、日光浴を行い生活のリズムを整えている。疲労の程度を観察し状態に応じ支援を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師、薬剤師から説明、指示を理解している。変化があれば随時医師に報告して指示をもらっている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常に会話を持ち、一人ひとりの希望を取り入れ、それにあつた趣味活動や余暇活動、個別の外出等をおこない気分転換を図っている。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブ等希望があれば都度対応している。1日バスハイクでは、行きたいところを選んでもらい外食を兼ね行っている。また、家族の協力ももらい、外出や外泊も出来ている。	年2回利用者の希望を取り入れたバスハイキングを実施しているほか、花見・ハイキング・外食・里帰りなど希望に応じてその都度対応している。また、敷地内のベンチでの日光浴や散歩など、日常的に外気に触れる環境づくりがなされている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、買い物や趣味などに使えるよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望がある時、対応している。また、事業所から家族に電話をかけた時、用件が済んだら利用者にかわり話をしてもらっている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普通家庭にとつても近い建物になっており、とても生活しやすい環境にある。すぐ目に付くところでの料理家事等日常落ち着いた生活となっている。	一般住宅を改造した建物の中に作品等が飾られ、家庭的な雰囲気を感じさせる空間となっている。キッチンの傍にテーブル居間、掘炬燵付きの和室、廊下の側に談話室があり、利用者それぞれが思い思いに寛いでいる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂、談話室、居間、居室とその時の気分や状態に応じ、過ごせるようになっている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら馴染みのあるも、使いなれたものを配置して、居心地良く過ごせるよう入居者の状態に合わせた対応を行っている。	洋室・和室に、位牌や慣れ親しんだ家具・飾り物などを各自持ち込んで、居心地のよく休める居室となっている。職員の支援もあり、掃除も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来ることわかることを把握し、現状維持できるよう心掛けている。		